

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p><b>1 今、学校では</b>（40分）</p> <p>昨年末、「子どもが主人公の教育を～今、学校でなにが起きているか」と題する講演を聞く機会がありました。</p> <p>講演の中で講師は、「コロナ禍がきっかけで不登校、いじめ、家庭内暴力などが急増、深刻化し、子どもも教員も疲弊、学校現場の対応にも困難が増えています。教職員のメンタルヘルス対策（支援）も急がれています。</p> <p>今、学校では「競争」「管理」「貧困格差」が広がっていると指摘されています。</p> <p>道徳の教科化や英語などの全面実施で学力の格差が広がり、学習意欲の湧かない子ども、毎日6時間授業と遊ぶ暇もないほどの宿題。子ども期の大切なものが奪われています。「学び合いの場」「育む」ことが失われているのではないかと危惧します。</p> <p>長時間過密労働が常態化し、健康破壊が進む教職員。パワーハラスメントも増えています。「じっくり子どもと向き合う時間がほしい」、「つらいのは『やらされる』こと」、そして、「教職員の専門性を『つぶされる』こと」、これが教職員の切実な声です。」と、おっしゃっていました。</p> <p>また、大阪市立木川南小学校の久保敬校長は2021年5月、「豊かな学校文化を取り戻し、学び合う学校にするために」という提言をしています。</p> <p>「子どもたちが豊かな未来を幸せに生きていくために、公教育はどうあるべきか真剣に考える時がきている。</p> <p>学校は、グローバル経済を支える人材という「商品」を作り出す工場と化している。子どもたちは、テストの点によって選別される「競争」にさらされる。そして、教職員は、子どもの成長にかかわる教育の本質に根ざした働きができず、喜びのない何のためかわからないような仕事に追われ、疲弊していく。さらには、やりがいや使命感を奪われ、働くことの意欲さえ失いつつある。</p> <p>今、価値の転換を図らなければ、教育の世界に未来はないのではないか。持続可能な学校にするために、本当に大切なことだけを行う必要がある。特別な事業は要らない。学校の規模や状況に応じて均等に人と予算を分配すればよい。特別なことをやめれば、評価のための評価や、効果検証のための報告書やアンケートも必要なくなるはずだ。全国学力・学習状況調査も学力経年調査もその結果を分析した膨大な資料も要らない。それぞれの子どもたちが自ら「学び」に向かうためにどのような支援をすればいい</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨（時間）	答弁を求める者
<p>かは、毎日、一緒に学習していればわかる話である。」</p> <p>過度な競争を強いて、競争に打ち勝った者だけが「がんばった人間」として評価される。そんな理不尽な社会でいいのか。誰もが幸せに生きる権利を持っており、社会は自由で公正・公平でなければならないはずだ。</p> <p>「生き抜く」世の中ではなく、「生き合う」世の中ではなくてはならない。</p> <p>世界の人々が連帯して、この地球規模の危機を乗り越えるために必要な力は、学力経年調査の平均点を1点あげることとは無関係である。</p> <p>子どもたちと一緒に学んだり、遊んだりする時間を楽しみたい。子どもたちに直接かかわる仕事がしたいのだ。</p> <p>1点2点を追い求めるのではなく、子どもたちの5年先、10年先を見据えて、今という時間を共にすごしたいのだ。テストの点数というエビデンスはそれほど正しいものなのか。</p> <p>誰もが一生懸命働き、人の役に立って、幸せな人生を送りたいと願っている。その当たり前の願いを育み、自己実現できるよう支援をしていくのが学校でなければならない。</p> <p>「競争」ではなく「協働」の社会でなければ、持続可能な社会にならない。</p> <p>根本的な教育の在り方、いや政治や社会の在り方を見直し、子どもたちの未来に明るい光を見出したいと切に願うものである。」</p> <p>以上、提言の内容を抜粋しました。このような視点から本市の教育について質問します。</p> <p>(1) 第6次鶴ヶ島市総合計画「施策7未来を創り出す力を育む教育の推進」には、「確かな学力」の育成とあり、道徳教育やいじめ・不登校対策の推進などにより、「豊かな心」を育成しますとあります。</p> <p>ア 「確かな学力」とは具体的にどのような「学力」ですか。</p> <p>イ 「豊かな心」を育てるには、芸術、文学などが重要と思いますが、当市における取組は。</p> <p>ウ 体力の向上には、ゲームやスマホでなく、集団で体を動かす遊びが大事であると思いますが、鶴ヶ島の子どもたちの現状は。</p> <p>(2) 「第4次鶴ヶ島市子ども読書活動推進計画（案）」における読書意識アンケートによると、「本を読むのが好き」と答えた子は、小2で約70%、小5で約43%、中2で約37%と</p>	

質問の件名及び質問の要旨（時間）	答弁を求める者
<p>学年が上がるにつれて少なくなっています。</p> <p>ア この結果をどうとらえますか。</p> <p>イ 6月に何冊読んだかという間に0～1冊が、小5で約17%、中2で約32%います。その理由が「本を読むのが好きでない」「ゲーム・テレビ・動画を見るから」が圧倒的に多い。そういう子どもたちにどのような指導をしていますか。</p> <p>(3) 教職員の勤務実態や健康状況について伺います。</p> <p>ア 時間外勤務の実態は。</p> <p>イ 早期退職、病休等の状況は。</p> <p>ウ パワハラについて、把握しているケースはありますか。</p>	